令和８年度第１回静岡県事業評価監視委員会　会議録

日　　時	令和８年９月２日（水）　午後１時 30 分から午後４時 30 分
場　　所	静岡県庁別館７階第２会議室Ａ
出席者 職・氏名	○委 員 加藤 亮（東京農工大学大学院連合農学研究科 教授） 加藤 裕治（静岡文化芸術大学文化政策学部 教授）【委員長】 久留戸 涼子（常葉大学教育学部 教授） 小山 真紀（Co-Innovation University 共創学部　教授） 鳥海 梓（東京大学生産技術研究所 特任准教授） 服部 乃利子（静岡県地球温暖化防止活動推進センター長） （敬称略、五十音順） ○事務局 羽田交通基盤部技監、北堀交通基盤部理事　他
議　　題	会議内容 （１）再評価対象事業の審議 （２）事後評価対象事業の審議
資　　料	・次第 ・座席表 ・委員名簿 ・委員会スケジュール ・資料-意見募集 ・資料１～資料８ ・再評価のパワーポイント資料 ・事後評価のパワーポイント資料

議題（1）再評価対象事業の審議

以下のとおり再評価対象事業について、審議を実施した。

＜再評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
1	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	－	久留戸委員	社会的には建材の値上がり等もあった中で、建築では例えばユニットバス等の納入遅れ等の影響はあったか。	事業者の予めの資材調達などにより、本事業において結果的に遅れなどの影響はありません。
2	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	9	服部委員	災害時のエネルギー確保のため、太陽光発電や太陽熱の利用などは考えているのか。	太陽光発電については、事業完了後に設置予定です。
3	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	6	服部委員	完成した第1工区の入居状況はどうか。	現在、80戸のうち78戸が入居中です。
4	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	12	服部委員	移転支援はどういったものがあるのか。	建替えに伴い団地内の仮住まいへの移転や建替え後の部屋への移転の調整を事業者に行っていただいています。
5	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	6	小山委員	建替後の規模（戸数）の縮小により元々住まわれていた方や住んでいた方が戻る場所がない、というような影響はないのか。	元々住まわれていた方は、再度住むことになっています。
6	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	6	小山委員	建替え前後で世帯構成が新しく変わったりしているのか。	様々な住戸タイプを全体の構成比を見ながら供給しており、それに応じた世帯が入居しています。建替え前後の世帯構成変化について細かな資料は手元にないため、必要であれば追って提供します。
7	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	－	久留戸委員	家賃はどのくらいか。	公営住宅の家賃は公営住宅法に基づいて設定しており、同じ部屋であっても入居者の収入階層に応じて家賃額が変わります。
8	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	7	加藤委員長	住宅困窮世帯の割合はほとんど変わっていないのに、規模を縮小しても問題ないか。	困窮世帯数を全て公営住宅で対応する、ということではなく、民間の賃貸住宅の状況等を参考にしつつ、公営住宅の供給数を決めています。
9	1	公営住宅課	県営住宅麻機羽高団地	再	－	加藤委員長	B／Cがないのはなぜか。	今回は新規の採択事業ではなく、老朽化した既存住棟の「建替」であり、B／Cの考え方はないためです。

＜再評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
10	3	道路整備課	一般国道362号下長尾工区	再	－	小山委員	追加便益について、どんな過疎地域であっても事業ができるようになる。整備の優先順位、妥当性を判断する基準が必要だと考える。今回の地域の年齢別人口分布を見た上で、考え方を整理できるとよいと思った。	今後、他県事例や先生方の意見を踏まえながら、地域特性を考慮し、観光や防災など様々な観点から平等に判断できるようなものを作り上げたいと考えています。
11	3	道路整備課	一般国道363号下長尾工区	再	－	小山委員	すべての道路を維持していく時代ではなくなっていく。整備の優先度の指標をどうするかということは、大きな課題になると思う。一方、分散居住については都市計画的な議論もあると思うため、難しい課題だが検討いただきたい。	御意見として承ります。
12	3	道路整備課	一般国道362号下長尾工区	再	5	服部委員	このような中山間部だと土砂崩れが発生したり、幅員が狭い箇所が多いと思うが、安全性について、ある程度、工期には影響しない形で工事が進むと思って問題ないか。	川根本町は土砂崩れが多いことから、そういったことを意識して施工しています。
13	3	道路整備課	一般国道363号下長尾工区	再	5	服部委員	夜間の視認性が悪いので、道路拡幅と併せて、道路照明の計画があるか教えてほしい。	道路照明灯は、交差点や横断歩道部に設置するため、本事業区間では設置しません。
14	3	道路整備課	一般国道362号下長尾工区	再	7	鳥海委員	他の現場から土砂を流用することでコスト縮減を図るとなっているが、購入土の方が安価ではないか。異なる性質の土を持ってきて問題ないのか。	土質も確認した上で、近隣の公共工事で発生した土砂を受け入れています。発生土の搬出側における残土処分費が削減され、搬入側も費用負担が運搬費のみとなるので、全体としてコスト縮減になります。
15	3	道路整備課	一般国道362号下長尾工区	再	8	鳥海委員	部分供用予定の範囲と整備効果について教えてほしい。	西側から延長70～80mの部分供用が可能となり、現状すれ違いが困難な状態のため、待避所としての効果も発現できると考えています。
16	3	道路整備課	一般国道362号下長尾工区	再	2	久留戸委員	寸又峡などの観光客は、新東名から国道473号を通ると思われるが、この工区はルートとして利用されるのか。	居住地等の条件により差異があると思いますが、道中の景色を目的とした観光客も想定されるため、一定の需要は存在すると考えています。

＜再評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
17	5	河川海岸整備課	二級河川 太田川 （下流工区）	再	5	久留戸委員	今回、令和4年の出水により土砂が堆積したということだが、他の河川でも同様の事象が発生しているか。	他河川においても同様の事象が発生しており、河道掘削などの対策を進めているところです。令和4年の降雨では、線状降水帯が発生し、特に中山間地で多量の雨が降ったため、山から流出した土砂に対して掘削や浚渫を行っています。
18	5	河川海岸整備課	二級河川 太田川 （下流工区）	再	3	服部委員	10年に一度の降雨を対象として事業を行っているが、降雨の基準は、何年の雨を対象としているか。平成14年か。それとも令和3年か。	降雨の基準は、河道計画を策定する際、雨量観測所のデータをもとに雨量確率を算出し、設定しています。太田川の河道計画では将来計画として50年に1度の降雨に対応する計画を作成していますが、はじめから50年に1度の降雨に対応した改修を進めると、その効果が上流に現れるまでに長期間を要してしまうため、暫定的に10年に1度、5年に1度の規模を設定して段階的に改修を進めています。 これらの改修規模は、大きな洪水の発生であっても基本的に変更しません。理由は、改修途中で規模を変更すると再度河口から工事を実施する必要が生じるためです。浸水被害の状況や河川の整備状況などを勘案しつつ適宜対応しています。 計画規模を上回る洪水に対しては、流域市町と連携して策定した「水災害対策プラン」に基づき、太田川の河道掘削に加え、市町が実施する支川の改修や流域対策、洪水ハザードマップの作成などを合わせ、総合的に対応していきます。
19	5	河川海岸整備課	二級河川 太田川 （下流工区）	再	5	加藤亮委員	令和4年の台風では、河口2.6km程度の場所に土砂が堆積したと思うが、河口付近は勾配がほとんどないという理解でよいか。そうすると河床を下げることもできないと思うので堆積物を除去しただけという理解でよいか。	今回の河道掘削では、堆積した土砂の除去に加え、10年に1回の洪水を流すために必要な河道断面の確保を目的とした掘削も併せて実施しています。
20	5	河川海岸整備課	二級河川 太田川 （下流工区）	再	5	加藤亮委員	河床を下げたということは塩水遡上などはあまりないのか。	太田川では海水の遡上があります。太田川は、朔望平均満潮位を基準にHWL（計画高水位）を設定するなど、海域の諸元を考慮した河道計画であり、本掘削はこの計画に基づき実施しています。
21	5	河川海岸整備課	二級河川 太田川 （下流工区）	再	－	加藤委員長	最近の降雨は激甚化しており、ハード整備事業での対応に限界があることは各地でわかってきていてソフト対策も組み合わせるということだが、新たな次元に突入していて、ハザードマップの想定外以上のことが起きる可能性があることを踏まえた上での防災対策というものを啓発してはどうかと思った。	御意見として承ります。
22	10	砂防課	水ノ谷川	再	6	服部委員	大幅に事業費が増えているが今後、さらに増えることはあるか。	物価の高騰や人件費の上昇などの可能性はありますが、詳細設計は完了しているので大幅な工法の変更は考えていません。ただし、豪雨等により施工途中に斜面が崩れるなどが発生した場合は、事業費が増える可能性があります。
23	10	砂防課	水ノ谷川	再	6	服部委員	地域との合意形成を図りながら実施しているが、早く完成してほしい以外に意見はあるか。	工事はこれから始まるため工事車両の動き等について、地元に広報していく必要があり、引き続きコミュニケーションを図っていきます。

＜再評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
24	10	砂防課	水ノ谷川	再	7	服部委員	工事費が増えた場合は、改めて再評価に諮るなどどのようにフォローしていくか。	5年に一度評価を行うこととなっているため、もう一度再評価の対象となると考えています。また、大幅な工法変更等による事業費の大幅増があれば適宜評価を行う可能性はあります。
25	10	砂防課	水ノ谷川	再	7	服部委員	夏場の工事が非常に大変になってきていることから、時間の制限や休日の確保を行っていると思うが、そのことで工期の延長や人件費の増額も予想される。これらを見込んだ上で、計画を進めてほしい。	御意見として承ります。
26	10	砂防課	水ノ谷川	再	－	加藤委員長	進捗率に対し事業費がかかるのは仕方ない。ハード面での効果が限界になっていく中で、今後の対策を考えていく必要も、今後は生じるかもしれない。地元の意見を踏まえながら事業を進めていってほしい。	御意見として承ります。
27	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	2	久留戸委員	赤線で示していない箇所について、崖などのため整備しなくてよいということか。	松崎地区の北側には弁天島があり崖になっています。そこから北側は西伊豆町です。反対に、那賀川よりも南側については、山あいに集落があるため、別途事業を進める予定です。
28	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	5	久留戸委員	南海トラフはいつ発生してもおかしくないものであるが、事業完了時期が令和14年で問題ないのか。	初期段階においては地元との意見調整を行い、津波対策の方針を設定しております。しかし、設計が進むにつれて利害関係が生じ、再調整が必要になったため、事業着手が遅れている状況ですが、現在、調整は大幅に進んでおり、設計も概ね固まってきています。今後は予算を確保し、事業の進捗を早めていく方針で、遅くとも令和14年度までの完了を目指し、一年でも早い事業推進に努めます。
29	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	6	服部委員	松崎地区は観光業が盛んなため、景観を考慮した構造への変更は理解できる。しかし、4年前に行ったボーリング調査において、地盤沈下の数値に大きな違いが見られた。これは基本的な事項であると考えるが、十分に対応できていなかったのではないか。耐震改良についても同様であり、基本的な設計が適切に行われていなかったのではないか。わずか4年前の調査でこれほど大きな変更が生じることは望ましくない。調査に対する評価をどのように考えているのか伺いたい。	事業着手前にいかに詳細を詰められるかが課題であり、近隣の既往調査結果を徹底的に調査しています。その上で事業化後に再度ボーリング調査等を実施しています。その結果、地質は場所によって地層や厚さが大きく異なることが確認されております。 また、水門については事業着手段階で一次選定を行っておりますが、詳細点検や新たな知見の取得により壁厚や耐波力の問題が判明し、津波対策技術の進展も踏まえて大幅な設計変更が必要となりました。安心・安全を最優先に考え、慎重に対応している状況です。
30	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	6	服部委員	事業着手後に詳細な調査が民間企業によって実施されていると認識しているが、着手後の全体事業費の大幅な増額について、最初に引き受けた業者にとっては違和感を覚えることがあると思われる。どのような連携体制を構築し、どのような段階を経て進めているのか。	現在工事を進めている箇所は、設計およびコストが確定しています。今後発注する箇所については、新たな事業費や工法を用いて進めていきます。
31	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	6	服部委員	これから新たに入札をかけていくということか。	そのとおりです。 分割して実施しているため、今後の部分については未発注です。

＜再評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
32	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	6	加藤亮委員	堤防の場所によっては80cm沈下を予測されているということだが、80cmも沈んだ場合その場所だけ堤防が傾いたりしないのか。	傾きについては、設計段階で地震動を想定し、構造物の挙動を確認しています。残留変位についても検証し、構造物が機能不全にならないことを確認しています。津波の場合は壁の幅分がずれると機能しなくなるため、その点を注視しています。沈下があっても約80cm程度であれば、壁としての機能を保持していることを確認しながら設計をしています。
33	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	9	久留戸委員	夏季の施工は避けるということだが、どのくらいを考えているのか。漁が関係あるのか。	地元の方との協議により、基本的には海水浴シーズン中の工事は行わない方針です。工事は主に陸上で行うため、海の養殖や漁業には影響が少ないと考えています。夏場の暑さも考慮し、その期間を避けながら適切な工期となるよう調整していきます。
34	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	－	小山委員	防潮堤の耐用年数はどれくらいになるか。	一般的な構造物の考え方として、耐用年数は少なくとも50年です。一方で、南海トラフ地震は100年から150年に一度の頻度で発生するとされているため、長寿命化が重要となります。コンクリートは100年近く持つ性質があるため、維持管理次第ですが、現時点では、少なくとも50年以上、最大で100年近く持つものとして考えています。
35	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	－	小山委員	今回の工事でL1津波浸水エリアが沿岸側に縮小されるが、高さの堤防を将来的に維持管理できるかは難しい課題である。L1津波浸水エリアの変更に伴う住居の建設についても議論が必要であり、長期的な維持管理や居住誘導を踏まえて計画を検討する必要があると考える。	本事業は港湾管理者単独の考え方で進めているのではなく、ソフト対策、特に都市計画等を含めて進めています。その取りまとめとして津波防災地域づくり推進計画において一定の方向性を示しています。具体的には、津波災害危険区域（イエローゾーン）の指定や、居住誘導等について町と調整しながら進めています。 維持管理については、高さを長期間保持することが課題であり、地球温暖化による海面上昇も考慮が必要です。計画を変更して一気に40cm上げるのではなく、海面上昇に応じて20年後に40cm上げるなど、順応的な対応を想定しつつ、高さの維持管理を検討しています。
36	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	2	加藤委員長	那賀川の対策は完了しているのか。	＜河川海岸整備課長回答＞ 那賀川の津波対策は、現在計画を作成している最中です。その計画の中で、水門形式や河川堤防といった方法を検討しながら進めております。
37	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	2	加藤委員長	この計画の中には那賀川は入っていないということか。南川だけということか。	そのとおりです。
38	29	港湾整備課	松崎港海岸	再	2	加藤委員長	南川よりも那賀川の方が規模が大きく見えるため、高潮対策としての意味はあるものの、津波発生時には那賀川が最大の課題となると考える。一体的に進めるためにはその点を踏まえた計画が必要であると考える。	御意見として承ります。

議題（2）事後評価対象事業の審議

以下のとおり事後評価対象事業について、審議を実施した。

＜事後評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
1	1	農地整備課	茂畑	事後	4	久留戸委員	従前の耕作者は傾斜地を売って新しくこの平坦地を購入し、移ったということか。	（従前の農地と）同じ場所の山を切り、谷を埋め、平坦な農地を生み出しました。農地の位置・形状は換地によって変更し、生産性の高い農地となっています。
2	1	農地整備課	茂畑	事後	4	加藤亮委員	みかん畑の場合の多面的機能とはどのようなものを想定しているか。	清水周辺のこの地域では、みかん畑のオーナー制度等により、収穫体験などを行っており、そうした効果を想定しています。
3	1	農地整備課	茂畑	事後	5	加藤亮委員	都市と農村の交流的な部分が大きな効果という理解でよろしいか。中山間地では水源涵養・生態系保全といった機能があるが、この地域は自然生態といった面より、文化的な面の機能を中心に考えるということか。	そのとおりです。水田とは違い、樹園地では水源涵養の効果は薄いです。
4	1	農地整備課	茂畑	事後	4	加藤亮委員	獣害が大きな問題となっているが、このエリアはそうした問題は無いか。	JAからは別途事業にて、獣害防止柵の要望が出ています。
5	1	農地整備課	茂畑	事後	3	鳥海委員	被害軽減効果とはどんな被害が軽減されたのか。資料に記載が無いため記載された方が良い。	農道を砂利道から舗装道へ整備したことによって、みかんの荷痛みを防止する効果があります。
6	1	農地整備課	茂畑	事後	3	鳥海委員	みかん等の生産量の増加は23%に対し、生産額は倍近くに増えている。これはみかんの単価が上がったからか。	この地域は従前栽培していた青島の単価が上がったこと、また、単価の高い他の品種も栽培するようになったこと、この2点から生産額が増加しています。
7	1	農地整備課	茂畑	事後	4	加藤委員長	この地域には新たな農業者が新規に参入できる余地はあるか。	現地を確認したところ、耕作放棄地となっている農地が無く、すべての農地で耕作者が耕作しているため、新規に参入する余地はないかと思います。

＜事後評価＞

番号	事業No.	担当課名	箇所名	評価区分	資料該当箇所	発言委員	委員からの意見・指摘事項等	回答・対応
8	6	街路整備課	都市計画道路沼津三島線	事後	3	服部委員	広い歩道が整備され、事業の効果が出ている。本事業は26年間という長い期間を要したが、次の事業では期間短縮が望まれる。	街路事業は街中で行うことが多いため、用地補償等に時間を要する傾向にあります。 今後の参考にさせていただきます。
9	6	街路整備課	都市計画道路沼津三島線	事後	5	鳥海委員	なぜ本事業で自転車事故が減ったのか？	元々は周辺生活道路で事故が起きていました。生活道路を通行していた車両が、整備した道路へ交通転換したことが事故減少の要因と考えられます。
10	6	街路整備課	都市計画道路沼津三島線	事後	5	鳥海委員	事故減少効果の評価は、測定時期が異なるため、本事業による効果であるか注意する必要がある。今後は、ETC2.0プローブデータなどを活用した、より精緻な評価が期待される。	今後の参考にさせていただきます。